

# 12

JCニュース News

本誌  
 ~愛する長崎を創始する  
 大きな原動力のために~  
 Junior Chamber  
 International  
 NAGASAKI  
 2018

2018  
 Vol.742 12

創 立/昭和27年12月1日  
 承 認/昭和28年2月7日  
 認証番号/36番  
 理 事 長/光富 英治  
 会 員 数/145名  
 編 集/一般社団法人 長崎青年会議所 広報委員会

**JCI** Junior Chamber International NAGASAKI  
 一般社団法人 長崎青年会議所

事 務 局/〒850-0874 長崎市魚の町3番21号  
 (マリンハイツ長崎202号)  
 TEL 095-825-2709 FAX 095-822-5399  
 E-mail office@nagasaki-jc.jp  
<http://nagasaki-jc.jp/>



Webサイトにアクセスできます

TOP NEWS

理事長挨拶

第66年度をプレイバック

新入会員フォローアップセミナー

世界遺産 ふしぎ発見!

~今こそ、潜伏キリシタン関連遺産を知ろう!! ~

- 11月会務室担当例会
- 第73回JCI世界会議ゴア大会
- 広報レポート[SANTA RUN IN NAGASAKI 2018]
- 65年をプレイバック「JCサンタと共に」
- 事業告知 2019年度OB会総会・新年互礼会
- 事業告知 卒業式及び卒業生を送るタベ





# 理事長挨拶

一般社団法人長崎青年会議所

第66代理事長

## 光 富 英 治



いよいよ2018年度、第66年度の最後のJ.Cニュースとなりました。1年間、J.C.ニュースを通じて皆様方へ長崎J.C.の運動へのご理解と現状報告そして私が想う長崎という地域への考え方など多くを発信させていただきました。

振り返ると、今年「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録や年々増え続けるクルーズ船入港によるインバウンド効果、MICE施設決定、三菱重工業幸町工場跡地のスタジアム建設など、今後の長崎を大きく変化させる様々な話題が席巻しました。しかしながら、定着人口、生産人口の低下に歯止めはきかず、造船業など基幹産業が低迷するなど、ネガティブな要素も依然としてあります。

我々長崎J.C.が取り組むべき問題は山積みであり、産業の衰退の中で会員拡大は思うように進まず、なおかつ入会年度が浅いメンバーも多いため、長崎J.C.の運営自体にも少なからず支障をきたすようになり、J.C.として長崎を明るく豊かにすべく事業を展開していく上で大事なものの、それは「本気」という気持ちではないかと思ひ、今年のスローガンを掲げさせていただきました。いくら良いスローガンを掲げても、そこに地域に住み暮らす人々を慮る気持ち、又この地域の未来を創造し、将来の都市像の中で住み暮らす人々を思い描く心、これがないければ何のための事業なのか、そもそもJ.C.とは一体どのような団体なのか、もちろん、三信条やクリード、綱領や活動における方針など、様々なものが明示されております。しかし、J.C.における価値観といわれれば、それは

多岐多様であると思ひます。私が思うJ.C.とは、一言でいえば「当事者意識の啓発」や「新たな価値の創造」、そして「仲間との絆」ではないかと思ひます。確かに、地域に対して社会貢献や活性化運動、長崎を明るく豊かにすべく活動を行っているのですが、そこにメンバー一人ひとりが目的意識、当事者意識を持って活動しているでしょうか。それがあつたのではないのでは、活動に対するモチベーションも変わってきます。運動の推進力も大きく変わってきます。ただ動員だからといって参加しても、それは地域や市民に全く伝わりません。又J.C.には、地方都市という距離的デメリットの中で、情報やスキームなど、J.C.を通して全国各地、更に世界各地から吸収し

## 私の履歴書 ⑧

光 富 英 治

2年日途中、運営幹事としてそれなりに頑張っていた8月中旬ごろ、ブロック委員長とされた立岩先輩から一本の電話。「来年、委員長としてくれないか?」。よくわからなかったが、「自分ができるのであれば是非」ということで、二つ返事で答えてしまった。委員会は広報委員会。決まってしまうと、必須アイテムである一眼レフカメラを購入。10万円くらいしたのに、委員長が終わってからは10回も使っていない。広報委員長であった第59年度、東日本大震災が発災した年であり、復興支援を行った際には多くの写真を撮り、J.C.ニュース特別号を発刊してその現状を伝えることができたのは本当に良かったと思う。又、当時岩永専務に「理事長のパパラッチになれ」といわれ、当時の塚根理事長の公務にも積極的にいっていき多くの写真を撮り、メンバー専用ページには色んな写真を載せて怒られていた。本当に多くのことが過ぎて充実した楽しい1年間であった。そして第61年度は、私が尊敬する先輩の一人である山中重輝先輩が担当副理事長のもと、例会の担当室

活用できる数多くのスキルメリットがあり。そして、忘れてはいけないのが、何よりも活動を通して得ることが出来る多くの仲間ではないでしょうか。この仲間が、時に運動とともに行う同士として、時には社業のための相談相手として、ビジネスパートナーとして、かけがえのないもので、ビネスパーク、皆様は、J.C.活動を通してしっかり理解していませんか。私には、まだまだそのチャンスをもっているメンバーが少ないように感じます。J.C.生活は、所詮40歳までしかありません。1日1日、1分1秒を無駄にせず、地域のため、そして自分のためにも、まずは積極的に何でも参加し、何でも挑戦してみたい。その大きな一歩こそが、全てを変

長を受けることになり、例会委員長には小西貴之先輩が就任することになった。これはこれで苦労することになるのだが、このラインでいまだに仲良くさせていただけており、小西先輩の名誉にも関わること多々ある。そこで来年はゆっくりJ.C.するぞと思っていたら、次年度正副の皆様が急遽当店に来店された。宴会以外でくるのは珍しいなと思っていたら、同じ席に座らされて「来年、地区の委員長せん?」といわれる。いきなりの出来事に、さすがに一呼吸おいて「ちよと考えると下さい」と返事。その後、地区の面白さや魅力を話され、すると次第に何かやってみようかなと思ひ始め、最終的には「前向きに検討します」と返事する。次の日、冷静に考えたがやはり難しいと思ひ、お断りの連絡を中村吉治理事長にも、「もう決まっちゃって連絡したけん無理」といわれ、仕方なくやめることになった。本当に気が重かったのだが、いざ受けてやってみると九州地区協議会の考えや多くのメンバーとの出会いがあり、私の考えは一変した。この1年間があつたらこそ、今の私があるというも過言ではない。月の半ば、小西先輩(当時室長)から電話。「理事長することになったけん、専務してね」「いやいや、無理ですよ」とさすがに即答。専務理事とい

える大きな原動力になります。まだまだ私たちにやることはたくさんあるはずですよ!もつともつとこの長崎を、我々長崎J.C.の手によって変えていきましょう!

最後になりますが、第66代の理事長として本当に多くの方に支えられ、たくさん経験をさせていただきました。これも全てはメンバーの皆様一人ひとりのおかげです。是非皆様も、この貴重な経験をしてみて下さい。こればかりはなつた人にしかわかりません、絶対におススメです(笑)。「本気」愛する長崎を創造する大きな原動力のために」1年間、本当にありがとうございました。

「社長と相談するので1日時間下さい」とお返事し、初めて社長に相談する。しかしながら父は、「やりたいならばやればよい」と、意外にあつさりとして拍子抜けした。だが、「J.C.と仕事は別やけん、やるならどつちも全力でやれ」といわれたのは今でも覚えている。そして今年、長崎J.C.の第66代理事長として、本当に多くの方々に支えられて活動させていただいている。もう間もなく、新しいブロック会長としての1年が始まることになっている。私は、できないと決めつけてしまったら何もできない、それならばどつちもやってみよう、というポリシーでここまでやってきた。J.C.で失敗したかたといって、会社が潰れたり、命が取られたりする訳でもない。なら、まず挑戦してみようと思ひている。今のメンバーは比較的保守的で、色んな保険をかけた上でやろうとする人が多いように感じる。このJ.C.で培った10年で、本当に多くの機会に恵まれたのは、何事もやってみようと思ひたい。今、悪くいえば、あまり考えていないことになっているのだが、それが唯一、私が今のメンバーに対して見られる背中ではないかと思う。いよいよ、私がJ.C.生活残り2年間、これからは私がいただいたご恩を次世代に恩送りすることを使命としてJ.C.活動に邁進していきたい。

# 11月会務室担当例会「本気スイッチの押し方教えます」



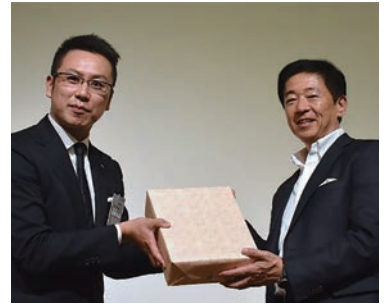
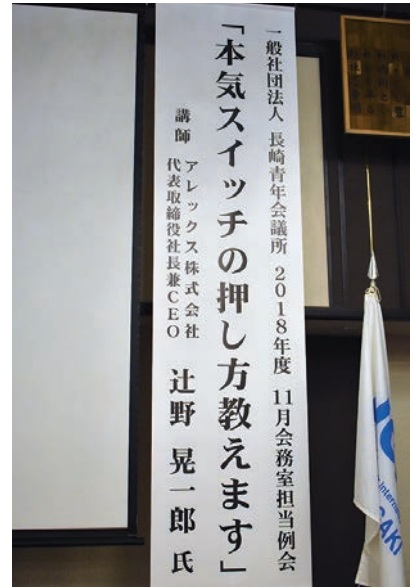
例会委員会

溝口 雄大 君

去る11月13日(火)、ホテルニュー長崎において11月会務室担当例会「本気スイッチの押し方教えます」を開催致しました。

講師のアレックス株式会社代表取締役社長兼 CEO の辻野晃一郎様より講演、小柳委員長との対談を行っていただきました。これまでの経験を基に、「当事者意識を持つことの重要性」・「積極的に取り組むことの重要性」についてお話しいただきました。受け身体質では新しいことが生まれにくく成長に繋がらないので、積極的な姿勢が大切だと感じました。

この例会をきっかけに、組織全体が今後のあるべき姿を、会員一人ひとりが各委員会・例会・各種事業のゴールを意識し、今後のJC活動に励んでいただけたら幸いです。



## 第73回JCI世界会議ゴア大会

インド・ゴアにて第73回JCI世界会議ゴア大会が開催され、長崎JCから光富理事長、馬郡事務局長、山口知宏君(九州地区協議会JCブランド確立委員長)の3名が参加しました。

JCのメンバーであれば国や地域を越えて皆が仲間。「国際の機会」が与えられたJCならではの交流を深めることができました。

2020年には横浜で世界会議が開かれることが決定しました。JCのダイナミックなスケールを体感することができる世界会議という機会を一度体験するのもいいかもしれません。







～愛する長崎を創(つ)造(る)する  
大きな原動(き)力(り)のために～

Junior Chamber  
International  
NAGASAKI

# 本気

# 2018



# 第66年度をプレイバック





# 新入会員フォローアップセミナー 世界遺産 ふしぎ発見!～今こそ、潜伏キリシタン関連遺産を知ろう!!～



新入会員フォローアップセミナー実行委員会  
(会員開発交流委員会)

北尾 聡子 君

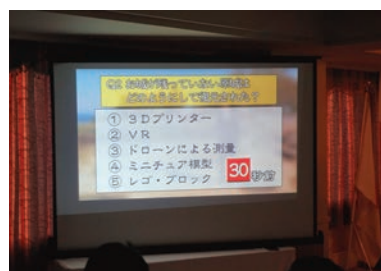
去る11月17日(土)に開催されました新入会員フォローアップセミナーには多くの正会員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

セミナー内容、運営に関しましては、まだまだ未熟な部分があったかと思えます。

ですが、6月からのフォローアップセミナー実行委員会で、JCでの事業構築のプロセスを学び、同期との連帯感を高めるという大きな成果を得ることができました。

この経験を活かし、今後のJC活動に邁進して参りますので、新入会員一同宜しくお願ひ致します。

最後に、山崎会員拡大委員長をはじめ、会員拡大委員会の皆様、先輩方、たくさんのアドバイスやご協力をいただき誠にありがとうございました。



会員拡大委員会  
委員長 山崎 祐紀 君

フォローアップセミナー当日は多くの正会員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

新入会員がJCについての理解を深めていただくことを目的として、このフォローアップセミナーの事業立案から企画、運営まで全て新入会員が行いました。

今年度のフォローアップセミナーは北尾実行委員長を始めとする新入会員が、どうすれば正会員に長崎の新たな魅力を伝えることができるのか、様々な意見を出し合い、事業前日まで一生懸命考え実施に至りました。

このフォローアップセミナーを通じて多くの修練を体験し、そして新入会員同士の深い絆が生まれたと確信しております。

そして、第66年度新入会員がこれからより一層充実したJCライフを送っていただけることを願っております。

# SANTA RUN IN NAGASAKI 2018

去る11月25日(日)、新地町・湊公園にて「SANTA RUN IN NAGASAKI 2018」が開催されました。当日は150名を超える市民の皆さんが参加し、JCメンバー、ボランティアスタッフとともにサンタクロースに扮しました。

コースは新地中華街、浜の町アーケード、めがね橋、出島を巡るおよそ3kmのコース。大勢のサンタクロースが歩く姿はインパクトがあったようで、道行く子ども達が「サンタさんだ」と喜んだり、チャリティイベントであることを説明すると「素晴らしいですね」などと多くの観光客に声をかけていただきました。

事業は今後プレゼントを子ども達に届けるところまで続きます。



## 65年を【第12回】 プレバック Nagasaki JC 65 years history JCサンタと共に

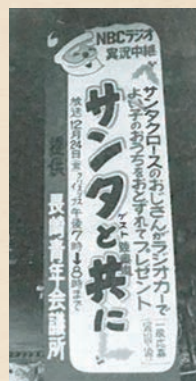
最終回は12月ということで過去の事業紹介で耳にしたことがあるかもしれません、「JCサンタ(事業名:JCサンタと共に)」を紹介します。

これは振り返ること47年前、1971年度から1977年度の7年間にわたり行われました。

開催のきっかけは1971年度、長崎JCが主管した第20回全国会員大会(全国大会)。この際にお世話になった市民へのお礼を込めて、クリスマスイブの24日の夜にサンタクロースに扮したJCサンタが長崎市内の子ども達を訪問し、クリスマスプレゼントを贈ったのでした。

NBCラジオを通じてJCサンタ訪問希望者を募り、71年度は2,000名の応募の中から抽選で400世帯を12班に分かれ訪問、73年度には2,000通の訪問希望ハガキから抽選で約750世帯1,000名の子ども達に、25名のJCサンタが市内はもとより長与町・時津町・三和町まで訪問しプレゼントを渡していきました。

届ける様子はNBCラジオが特別番組で生中継したそうで、プレゼントを受け取った子ども達の



明るい表情や、脳性小児マヒの子どもが嬉しそうなお表情でいつまでもJCサンタの手を握り締めていた情景には涙が誘われたとのことでした。

今年、長崎JCは「SANTA RUN IN NAGASAKI 2018」を開催し、多くの市民の皆さんと地域の活性化に取り組みました。いただいた参加費は病氣と闘う子ども達、児童養護施設の子ども達へのプレゼントとして使われます。市民の皆さんも巻き込んで「JCサンタ」となったわけです。

時代を超えても変わらないまちへの想いは、「愛する長崎を創造する大きな原動力」として次年度へと引き継がれていきます。

(広報委員会/三田村龍太郎)





第67年度総務委員会 運営幹事  
**平野 将吾 君**

来る2019年1月10日(木)18時45分よりホテルニュー長崎3階 鳳凰閣西におきまして2019年度OB会総会が開催されます。特別会員の皆様卒業後も長崎JCの活動に対して後援することを目的のひとつとしてOB会を組織され、年に一度総会を開催されています。総会では、OB会会長のご挨拶や2018年度の決算報告などが行われます。又、卒業生が新たにOB会新入会員として紹介

されます。総務委員会ではOB会総会の進行補助をさせていただきます。

OB会総会に続いて2019年度新年互礼会も開催されます。日頃よりご理解、ご協力をいただいている来賓及び特別会員、来訪JCの方々をお招きし、長崎JCに対するご協力に感謝の意を伝えるとともに、今後の活動に対して更なるご理解をいただくために、交流を深めたいと思っております。当日は正会員の皆様で来賓及び特別会員、来訪JCの方々と心からおもてなしできるように、どうかお力を貸していただきますようお願い申し上げます。



## 【事業告知】 第66年度 卒業式及び卒業生を送る夕べ

**12月21日(金) ホテルニュー長崎 3階鳳凰閣 にて**

- 卒業生のみ記念写真撮影 17:45 ~
- 全体記念写真撮影 18:00 ~
- 卒業式 18:30 ~
- 卒業生を送る夕べ 19:30 ~

卒業生の新たな門出を祝し、今までの感謝と労いを込めて正会員全員でお祝いしましょう！

## 12月号を終えて

この1年、撮影で多くの事業の現場に参加し、長崎JCのみならず出向先で陰に陽に活動しているJC会員を見ることができ、私自身、視野が広がり大きな学びや貴重な経験を積むことができました。

理事としても仕事や家庭とのバランスを取るのに四苦八苦した1年でしたが、支えてくれた広報委員会メンバーには本当に感謝です。そして取材・原稿執筆にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

広報委員長 田口 一男

### 【第66年度広報委員会】

鮎川 愛 分部 高 三田村龍太郎 数 昌晃 池田 光史 川原 倫彦 桑畑 義治  
 新ヶ江拓哉 那須 忍雄 松下 文学 松島 稔 山崎 敏郎 高橋 慧真 山口 裕嗣  
 田口 一男